



# APAY eNews

翻訳: 永岡美咲(日本Y M C A同盟)

## アジア・太平洋Y M C A同盟 常務委員会・常置委員会 2012

アジア・太平洋Y M C A同盟(APAY)の年次常務委員会が2012年3月7日~9日に開催されます。今年の常務委員会は、新たな4か年のスタートを切るにあたり重要な会となります。APAYの各重点項目について、各国最前線のリーダーたちが議論し、熟慮します。この常務委員会での決議や成果は、今年1年だけではなく、今後4年間にわたって実行されます。

APAY重点項目は、運動強化、ユース・エンパワーメント、課題について焦点を当てています。戦略計画は、2011年のアジア・太平洋Y M C A大会およびユース・アセンブリーと、リーダーシップ円卓会議でのアウトプットで示されたものです。前回までの常務委員会からの大きな問題に対処するために、初めての出席者全員に向けた1時間のオリエンテーションを行います。ユース委員会と各国総主事会議は3月6日に開かれます。

引き続き、リーダーシップ研修が香港Y M C Aの支援により3月6日~7日に開催されます。常務委員会終了後の9日午後からは、リソース・モビライゼーションに関する研修が行われます。この研修には、すばらしく、また経験豊かなリソース・パーソンたちが招かれています。

日本からは、島田茂同盟総主事、岡戸良子氏(横浜Y M C A常議員・APAY常務委員)、中村あずさ氏(学生Y M C Aシニア・APAYジェンダー委員)、黒澤伸一郎氏(横浜Y M C A常議員・同盟常議員・APAYユース委員)、橋崎頼子氏(神戸Y M C A常議員・APAYユース委員)が出席予定です。

## アジア・太平洋地域における 自然災害対策ワークショップ

近年、アジア・太平洋地域で頻発している災害への対策として、APAYは、ミャンマーY M C A主管での自然災害対策に関するワークショップを4月30日~5月2日の日程で開催します。

このワークショップでは、たびたび災害の被害を受ける各Y M C Aが、災害対策に関する能力の開発、強化するための知識、技能、能力を獲得するための共通の討論会を主催します。また、このワークショップは、コミュニティーの災害対策の枠組を通して、災害への対処や対応の際、いのちや財産への悪影響や深刻な被害を軽減し、特に若者や子どもたちがコミュニティーを支援する際に能動的な役割をすることを目的としています。

基本的には、この3日間のワークショップでは、インプット・プレゼンテーション、ワークショップと実践、参考となる事例についての共有とフィールド・エクスポージャーが行われます。

## APAYに2人の新しいスタッフが加わります

APAYにプログラム担当の新しい主任主事を迎えます。現バングラデシュY M C A同盟総主事の Duncan Stephen Chowdhury氏です。同氏はバン



グラデシュ同盟総主事を14年間務めてきました。1985年にチッタゴンY M C Aの総主事となりY M C Aでのキャリアを始め、さまざまなレベルでのY M C Aでの働きを24年間続

けてきました。

ダンカンがチッタゴン大学商学部卒で、特に会計学が専門です。また、インドで行われた基礎研修と、タイで行われた第12回アドバンス・スタディーズ・プログラムを修了しました。

また、YMCA運動のダイナミクスを、ローカル・ナショナルのレベルで経験を積みました。とりわけ、APAY とよい関係を持ち、16年間でさまざまな研修やワークショップに参加し、他国のYMCAともつながりを持ってきました。

ダンカンは妻 Sylvia Merlin さんとの間に Raychal Melissa という一人娘がいます。4月より、APAY の仲間となります。

\*\*\*

APAY のインターンシップ・プログラムには、ミャンマーのジュリア・ムン・パン (Julia Mun Pan) さんが採用され、3月から APAY で働きを開始します。アジア・太平洋地域のユース・プログラムやユース・ワークに関する業務を



担当する予定です。特に、第4回アジア・太平洋ユース地域会議と、地球市民育成トレーナーズ・トレーニングに関する準備と実施に携わります。

ジュリアは、ここ数年間、多くのアジア・太平洋地域の行事に参加してきました。第2回と第3回のアジア・太平洋 Uni-Y 会議、2010年の APAY 常務委員会、APAY ユース・カウンシル、インターナショナル・ユース・フォーラム、第17回世界YMCA大会と、2011年の第2回 APAY ユース・アッセンブリーです。

また、ジュリアは英語学の文学学士で、現在はミッチーナ (Myitkyina) YMCA のアシスタント・ユース・ディレクター / オーガナイザーで、日本のYMCAが支援する孤児院でパートタイムの英語講師をしています。

## ティナ・D、 マニラダウンタウンYMCAへ

2012年1月1日付で、マリア・クリスティーナ・ダローペ氏が、フィリピン・マニラダウンタウンYMCA総主事に就任しました。クリスティーナは、1995年～2007年の12年間、フィリピンのパンガシナンYMCA総



主事と、同YMCAのセントラル・パンガシナンYMCA館長を務めました。フィリピンのYMCAでは、女性で初の総主事でした。1990年～1993年には、パンガシナンYMCAのプログラム・コーディネーター、1993年～1995年には主任主事として活躍しました。2007年～2011年10月まで、APAY プログラム担当主任主事を務めました。特に関心のある分野は、ユース参画、リーダーシップ開発、ジェンダー公正と女性のエンパワーメントと多岐にわたっています。彼女は就職してから22年間、YMCA一筋のスタッフです。

## 各国YMCA最新情報 インドネシア PSG

2011年12月以降、APAY は、インドネシアYMCA同盟と、インドネシ



ア・スラバヤYMCAへの支援を密接かつ集中的に行っています。

過去のすべての運動強化支援の発展や成果に基づき、双方のYMCAは再生計画を実施していきます。オリエンテーション、研修、戦略計画立案、能力開発といったプログラムやワークショップが、今回の運動強化プロセスによって行われます。運動強化の3つの柱(制度の実行可能性、ミッションの具体性、社会的妥当性)に従って行われます。2012年上半期には、APAY から数回訪問する予定です。インドネシアYのさまざまなスタッフに対する会議が

行われる予定です。

この件について、APAY 主任主事の Eloisa Borreo 氏が担当しています。次回のインドネシア同盟およびスラバヤ Y への視察訪問は 2 月 2 日～12 日に予定されています。PSG (パートナー・サポーターズ・グループ) 会議も、視察と運動強化の再計画を兼ねた訪問で行われる予定です。

## YMCA ワールド・チャレンジ (YMCA World Challenge) 2012

YMCA ワールド・チャレンジの目的は、500 万人を動員し YMCA のストーリーを語ることです。あなたの YMCA ワールド・チャレンジの計画を始めて、活動を世界中に広めてください。2012 年、ともに歴史を作りましょう！



## 総主事デスクより

### APAY 報告と日本の YMCA への期待

アジア太平洋 YMCA 同盟総主事 山田公平

日本のみなさまへ

2011 年は APAY にとって節目となる一年でした。総会期 (Quadrennial 2008-11) 最後の年であり、2012 年から始まる新 4 ヵ年計画策定の時期でもあります。12 月 17-19 日にシンガポールで開かれた、中期 4 ヵ年計画策定会議 (Leaders Quadrennial Roundtable) にはコース 6 名を含め、12 カ国から 29 名が参加し、今後 4 年間の APAY とこの地域の YMCA の進む方向を一緒に話し合いました。

これまで、世界同盟の課題や目標と APAY の目標は必ずしも一緒ではなかったように思います。でも次の 4 年は、世界的な視点をもとに多くの YMCA が共に動き、全体的な力で、大きな成果を見ることが出来る 4 年にしたいも

のです。そんな視点からこのレポートを書かせていただきます。

世界同盟 (WAY) とアジア太平洋同盟 (APAY) の方針 2010 年に世界同盟の総会があり、新体制で動き出しました。NEW WAY (World Alliance of YMCAs の略語) という言葉を使って、世界中の YMCA が共同戦略を作ろうと願っています。そうすることによって、これまでよりも、YMCA の働きが社会的に見えるようになる。YMCA が必要だからこそ、その働きのために資金的、人的な貢献がもっと大きくなっていく、そんな将来の可能性に向けて踏み出したと考えています。

#### 1. Youth Empowerment Organization

YMCA は世界最大の青少年団体ですが、それがどこまで一般社会で認識されているのか疑問です。YMCA では多くの子どもや青年が関わっていることは確かです。ただし、若者をエンパワーするという事は、問題処理能力をもち、自分で判断し、責任を持って活動を担う若者になるということです。若者が社会問題に目を向け、提案をし、市民社会を形成しようと言う動きを作ること、若者が、YMCA の活動や働きを自分たちで決めて実行していくこと、そんな環境を YMCA の中に作られなければなりません。そういう若者を育てる場として YMCA が再認識されるよう願います。NEW WAY では、“Youth Empowerment Organization” として YMCA が世界中で認識されることを目指しています。

#### 2. Resource Mobilization

YMCA が社会の問題に目を向けるとさまざまな課題が見えてきます。そして社会的課題への働きを可能にしていくためには、活動に必要な資金を生み出す必要があります。その結果、若者の育成がさらに強められることとなります。YMCA は従来、学校事業やホテル事業などの資金を活用して社会問題になどに取り組む活動をすすめて来ましたが、社会問題に取り組むための資金や人材獲得 (Resource Mobilization) を積極的に、計画的に進めることが大きな変化を生み出す原動力になるということです。

### 3. YMCA 運動強化

グローバル オペレーティング プラン III (GOPIII) は継続して行っています。APAY では PSG (Partners Supporting Group) という名称でインドネシア、カンボジア、東ティモールを中心にいくつかの国が協働で計画を練り、一緒にそれらの YMCA 強化のために取り組もうとしています。これらの新しい YMCA や困難な運営をしている YMCA にヨーロッパや北米の YMCA が一緒に取り組むと言う仕組みをさらに広げたいと考えています。特に日本のローカル YMCA が国際協力の一環で PSG のメンバーになってもらうことを望みます。

### 4. ガバナンス (統治機構、意思決定のありかた)

ガバナンスの強化と見直しが全体的な課題になります。日本では、新しい公益法人になるためのガバナンス条項が求められています。より強く、社会的に活動するためには、方針作り、それを実行するための組織のあり方を見極め、必要な支援やネットワークを広げることを可能にするガバナンスを作り上げる必要があります。理事会や評議員会のあり方はどうあるべきなのか、それを妨げるものがあるのか、自分たちのガバナンス機構を評価しているか、どういう人材をガバナンスの中に求めるべきなのか、などを検証していく仕組みを APAY と各国同盟レベルで築きあげ、研修の機会を設けていこうというものです。

### 5. YMCA のイメージとインパクト

YMCA は世界最大の青少年団体ですが、外から見ると YMCA は何をしているのか、そのイメージはばらばらでした。YMCA の新しいイメージ (Global Branding) が生み出されるようにしようということです。さらには、いまや若者のコミュニケーション手段はどんどん変化しています。若者の課題を若者が中心に取り組むためには、コミュニケーション手段も検討されるべきではないかという視点です。2012 年 10 月 13 日には World Challenge という取り組みを世界規模で行います。同じ日に世界中の YMCA が若者中心にスポーツ大会をしたり、講演会をしたりして、それをメ

ディアを使って世界中にアピールしようというもので、「YMCA は、若者をエンパワーする団体」というメッセージを世界同時に伝えようという実験的な取り組みです。

発行元  
アジア・太平洋 YMCA 同盟  
Asia and Pacific Alliance of YMCAs  
23 Waterloo Road, 6th floor, Kowloon, Hong Kong  
tel. 852-2780 8347, 2770 3168, 2783 3058; fax 852- 2385 4692  
e-mail: office@asiapacificymca.org